

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	せんだいしらゆりがくえんちゅうがく・こうとうがっこう				②所在都道府県	宮城県	
27～31	①学校名	仙台白百合学園中学・高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	中学校 : 310名 高等学校 : 485名 (LI コース 336名、LS コース 80名、LE コース 69名) ④は特進コースからスタートし、指定後4年目から実施コースを増やし5年目で全校生徒実施		
普通科 (LS 特別進学コース)	30	25	25		80			
⑥研究開発構想名	白百合が開発するグローバル・サーバント・リーダープログラム							
⑦研究開発の概要	地球市民の育成を目指し環境問題を中心に探究活動を展開する本校の総合学習を、グローバル化の進展により社会から忘れられがちな人々への共感と他者に尽くす奉仕の心とその実践を根底に、主体的に行動できるグローバル・サーバント・リーダーへの育成プログラムへと伸長・発展させるため5つのテーマ(環境・食・医療福祉・教育・企業)で課題解決型探究活動を国内外で全員で実施する。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					現在の課題解決型探究活動と連動する学習プログラムに、1893年の創立以来、修道女達によって受け継がれてきたその活動と精神(社会から忘れられがちな人々への共感・他者に尽くす奉仕の心とその実践)を根底に『人を支え、人を活かし、人をつなげる』グローバルサーバントリーダー(GSL)に成長させるべく以下の4点を育成する。 ◆自国文化と異文化の理解と共感・グローバルな視野を育成する【意識・知識・理解】 ◆異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協働する力を育成する【技能・スキル】 ◆地球の一員として、問題解決のために地域から社会に働きかける行動力を育成する【態度・姿勢・価値観】 ◆国内外のGSL及び、奉仕の精神を持って生きる人々の信念と活動から、自己を他者のために活かそうとする力を育成する【精神・表現・思考】	
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					本校は建学以来、宗教福祉教育・国際教育・英語教育の充実を図り、コース制の導入により一定の結果を輩出してきたが、近年、生徒自ら主体的に学ぶ意欲を育てることや、社会環境の急速なグローバル化に対応する理念・スキル・学び・発信を強化する部分に遅れが目立ち、いつしか生徒の弱点にもなっている現状。この現状打破のために以下の仮説を立てた。 仮説1) 本校が育成したいリーダー像を明確にすることによって、建学の精神を再認識し、これまで行ってきたグローバルな視点を育む教育活動の活性化ができる。 仮説2) 総合的な学習の中で展開される5つのテーマに基づく探究活動と、各教科で展開されるアクティブラーニングが結びつくことで、主体的な学びが実現し、協働する力、他者と対話する力が飛躍的に向上する 仮説3) 台湾における探究活動型海外研修や校内外での研究成果発表会、大学との連携等に取り組みせることで、自ら発信する力と行動する力が向上する	
		(3) 成果の普及					◆開発プログラムの成果 ・研究成果発表会を実施・研究成果報告書の作成・HPに定期的に研究報告発表 ・姉妹校へのプログラム普及に関する研修会の実施・学校説明会等での発表 ◆生徒の課題解決型探究活動の成果 ・校内発表・学園祭における発表・研究成果発表会での発表・他SGH校との合同発表 ・国内外の連携高校、大学、研究機関での成果発表・国際機関、国際会議等での発表 ・高校生女性フォーラムの開催(最終目標)	

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 GSL の育成のため、5 つのテーマ『環境・食・医療福祉・教育・企業』を設定。それぞれに『先進国の飽食と途上国の飢餓』、『食の安全と農薬』、『高齢化社会における看護師の資質』、『女性と子どもの教育支援』、『企業のアジア進出における課題の解決』等々の探究課題を設定し、連携大学・研究室・企業等の指導の下、GSL の視点を持って解決に向けた研究を国内外で全員で展開する。</p> <p>(2) 実施方法 生徒が真の GSL に成長出来るよう、1 年目は国内を中心に 5 つのテーマ（環境・企業・食・医療福祉・教育）で高大連携、企業との協力のもと、問題意識の育成と共有、論理的な思考力の育成、継続的な協働による探究活動と学びの構築、実践的なコミュニケーション力を育成する。リーダー学の基本概念を養成し、奉仕の精神で活躍する女性たちについての見識を深め、サーバント・リーダーとしての覚醒を図る。教科においてはアクティブラーニングを導入し、学びの喜びを理解しつつ、英語の 4 技能の基盤を築く。2 年目は先輩力を活用しながら全員による海外(台湾)での探究活動を実施。課題の再考と解決策への模索を展開。実践的な英語力を武器にプレゼンテーションスキルをアップさせる。リーダー学の神髄に触れつつ、奉仕の精神を生きる女性と接し、サーバント・リーダーとしての自覚を促す。教科においてはアクティブラーニングによる学びの探究を深めさせ、英語の 4 技能の更なる育成に力を注ぐ。3 年次は共生の社会の実現に向けて、1, 2 年次の基礎的な学びと探究活動を基に、課題解決策の実践に向けた行動力と表現力、発信力を高める。奉仕の精神を生きる女性と共に行動しつつ、各種大会の出場と WEB によるアクションプランの発信、集大成としての『高校生女性フォーラム』の実施。社会とダイレクトにつながる GSL としての完成をみる。</p> <p>検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントを基に意識・姿勢・態度を定期的なセルフチェックで評価 ・講演、研究施設等での研修における研修レポート及び課題解決のための企画力・発信力等のレポート、プレゼンテーションで評価（自己・教員・外部講師・アンケート） ・自身のキャリアデザイン（進路志望等）及び語学系資格取得の状況を検証 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>《取組・内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を深めるための金融経済学と和食文化の学習 ・台湾の歴史と現状及び日本・中国・台湾の関係を理解する取組 ・修道女たちとの連携及びサーバント・リーダーを理解する取組 ・論文作成の方法と英語による PPT の作成方法に関する指導 ・英語によるコミュニケーション能力の向上及び中国語の習得に関する取組 <p>《期待される成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決策・アクションプランを導く場合の有効な手立てとなる他、日本人としてのアイデンティティの確立につながる。国内外の他者と協働する上での連帯の強化と充実につながり、より一層課題解決に向かう思考の流れが強靱なものとなる。 ・情報の収集と活用、論理的思考による提示内容の工夫と表現の充実は、主体性を増し、学びの幅を広げることを可能にする。 ・精神と行動の一致を導き、多様な価値観を理解し、コミュニケーション能力の向上につながる。 ・英語の 4 技能の能力を向上することで、論理的に他者に物事を伝えることができ、相手の意見や時代の世論を背景に、対話を通して合意を形成できる力を育成できる。 <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントによる定期的なセルフチェックと行動・発信部分での第三者による評価 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後のグローバルカフェの実施により、宮城大学等の外国人留学生との交流場所を提供する。 ・同窓会に働きかけ、GSL 育成資金の援助を企画する。 (在校生・卒業生の海外留学(長期留学 or 進学)の場合の給付型奨学金等)
<p>⑨ その他 特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力の向上のため、高校時におけるデュアルディグリーのシステムを導入し、海外の大学へ進学を希望する生徒に対する支援の在り方や校内指導体制の研究を進める。 ・海外研修を全員で実施する中で、シャルトル聖パウロ修道女会の世界的なつながりとその背景、現在の活動の様子を姉妹校へ定期的に動画による配信を実施。 ・20 人の GSL を選定し学習教材及びパンフレット(日本語・英語・中国語)を開発。 ・中国語の学習環境を整え、時代にふさわしい人材を育成する。